非暴力平和隊･日本(NPJ) ニューズレター

Nonviolent Peaceforce Japan Newsletter

第23号

〒113-0001 東京都文京区白山１-31-９ 小林ビル３階

Tel:080-5520-3077 E-mail:npj@peace.biglobe.ne.jp

Fax:03-5684-5870 Website:http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/

2008年6月27日発行

巻頭言

非暴力平和活動の可能性を思う

非暴力平和隊・日本 理事 前田惠子

２００８年５月連休に９条世界会議に参加した。実行委員でさえ驚くような１万５千人という参加者数があり成功を収めた。マスメディアに無視されつつも「それなら草の根で伝え合い、成功させよう」とのさまざまな人の思いが結集した様子を我が目で確かめただけでも感動を覚える経験であった。

非暴力平和隊･日本も自主企画として２日目の分科会にワークショップを開催した。

テーマは「紛争地で活かす憲法９条―紛争地で武器を使わずに平和を創造する苦難と喜びを、活動経験者が語る」であった。

発言者はラム・マニバナン（非暴力平和隊・インド）阿木幸男、大橋祐治、大島みどり、大畑豊（非暴力平和隊・日本 以下ＮＰＪと略す）の各氏である。

巻頭言 非暴力平和活動の可能性を思う NPJ 理事 前田惠子 ・・・・・・・・ 1

＜９条世界会議＞、大誤算の挙句の大盛況 NPJ 事務局長 安藤博・・・・・・・・ 4

ラム・マニヴァナン氏に同行して NPJ 共同代表 大畑豊・・・・・・・・・ 7

日本での滞在 NP 国際理事 ラム・マニヴァナン・・・8

9 条世界会議、幕張メッセに参加させていただいて NPJ 会員森田留美・・・・・10

休戦協定破棄・自爆テロ頻発下の NP 活動 スリランカ FTM 徳留由美・・・・・12

国際理事会ニュース NP 国際理事 阿木幸男・・・・・・・18

ミンダナオ・プロジェクト近況 NPJ 理事 大橋祐治・・・・・・・・・ 18

NPJ 中期計画を決定 NPJ 事務局長 安藤博・・・・・・・ 19

ふくしま非暴力平和隊ネット集会案内 NPJ 監事 鞍田東・・・・・・・・・・・ 20

日本平和学会分科会での報告 NPJ 共同代表 大畑豊・・・・・・・・・ 21

NPJ2007 年度決算 NPJ 理事 大橋祐治・・・・・・・・・ 22

NPJ 主催セミナー、講演会の予告 事務局・・・・・23

こちらも５０名くらいの参加者を見込んで準備をしていたのだが、予想に反し１２０名もの参加があり、イスや資料の補充に追われ、てんてこ舞いというう れしい誤算があった。いずれの分科会も満員御礼状態だったと聞くので、中にはお目当ての分科会にあぶれてしまい、この会場に（しかたなく）来たという参加者もいないではないだろうが、イスが足りず床に座ってまで聞き入る参加者の姿にスタッフ一同感激の思いがあったことも事実である。

ワークショップではＮＰの理念、活動報告、質疑応答などの他に、簡単なゲームで体験をするという手法も取り入れられた。二人組になり即興で９条改憲派と護憲派に分かれ、意見を述べ合うというものである。これは非暴力トレーニングで使われる手法であり、創造的に考える、注意深い聞き手になるための訓練である。討論の中で意見を異にする者同士がお互いの立場、考え方を聞き、理解しあう手助けとして行うものであると理解している。

ファシリテーターの阿木さんは著書の中で「感情的になりやすいテーマの討論の初めに採用するといい」と記している。私たちは一般にこういったトレーニングをあまり積んでいない。日常のことで恐縮だが、諍いというものは結構相手の話しをちゃんと聞かないことに起因するものが多いと思う。思い込みによる誤解が争いの発端になることもしばしばである。また、討論になるとつい相手を言い負かすことのみに集中してしまい、実りある結果も得にくかったりする。非暴力的に行動をするには訓練が必要だとガンジーも言っている。ガンジーにとって非暴力は個人から、家族、社会、国家、世界へと広げていくものである、とラムさんのお話にもあったが、このようなワークショップに接し、非暴力の社会を得ようと思えば、心の中に非暴力の種がないといけない、というガンジーの言葉の深遠さを思った。他の参加者はどのように感じただろうか？

質疑応答で大量虐殺の場合には軍事介入も必要ではないか。人々が殺されているのを非暴力者が傍観しているだけでよいのか？という質問があった。大島さんが「ルワンダの大量虐殺の現場では自分たちにできることはほとんどないと認めざるを得ないが、あそこに至る前にできることがあったのではないかと思う。リスクマネージメントが言われるが、最悪のシナリオに至る前にやるべきことを精一杯やることが大切だと思う。」と回答されていたがルワンダの紛争の場合はあまりにも世界が無関心だったことが問題を大きくしたと私も思う。

今回の９条世界会議でもゲストの誰もが「紛争予防の仕組みつくりに９条が必要」だと訴えていたのが印象的であった。午前中にあったシンポジウム「「世界の紛争と非暴力―非暴力アプローチを世界のメインストリームに」にも参加してみたが、コーディネーターの谷川博史氏が「紛争勃発

には必ず予兆があるがその時には国際社会は無関心。紛争になった方があらゆる意味で『仕事』になるので敢えて見過ごされているのではないかと指摘していたのも印象に残った。また紛争回避の努力もせず軍事介入が必要だと思わせるような土壌自体が問題だという話もあった。このような紛争回避の場面にこそＮＰの活動の出番があるのではないかと思うが、軍事力に頼る勢力はまず回避に努力するという発想と実践が少ない。とかく日本では「攻められたら非武装でどうするの？」という議論に落ち入りがちだが、紛争はある日突然に起こるのではないというのが常識である。武力衝突を避けることが国家の大きな責務なのだが、そのことに不誠実な政府を持った市民は自分たちが率先して実践していかねばならないだろうとの思いも強くした。

最後にＮＰＪの課題にも触れておきたい。

つねづね課題とされる会員の増大だが、かねてよりネックと思っていたのは日本国内の問題との関係である。説明会を開いてみて寄せられる感想の中にＮＰの理念は素晴らしいし、必要な活動だとは思うが、身近で切実な問題（例えば在留米軍基地の問題等）を抱えている身にとって会費を払って活動を支援するところまでは思いはいかない。国内の問題へのコミットはないのか？というものがある。

この度の理事会の中期計画案ではそのことへの言及もあり、今後日本における非暴力運動のあり方を検討し、非暴力の啓蒙、国内の非暴力運動にも積極的に関与していく、とのことだ。難しい側面もあろうが、この決定が今後のＮＰＪの発展に寄与することを願ってやまない。「非暴力」は「非力」ではなく、現実的な力であることが日本の市民の普遍的な価値観となるためにＮＰＪが関与していくことは可能であり、意義があることだと思う。

また計画の中に非暴力平和活動の将来を担う若い世代の大学生、さらには高校生などに影響を与えることを重視する、ともあるがここのところも重要であると思う。若い世代の間では平和もエコロジーも一緒という感覚が育ってきているし、国際競争に勝利することで語られる経済成長の考え方などにも疑念を持ち始めている。一方的な搾取を戒める社会的公正とあらゆる命に対する敬意が根底にある活動であれば広がる可能性があると思う。

若者への影響は直ぐにはＮＰの支援者となるかどうかという点での即効性は不明だが「人を育てる」という意味においての貢献は多大であると思う。君島共同代表が言われる「する」平和主義の普及・発展にできることはまだまだある、と考えると道は険しいながらわくわくせずにはいられない。そう、非暴力に生きるには「生きる喜び」を感じることも大切な要因である。私もそういう生き方の道を選ぼうと歩み出したのだと感じている。

＜9 条世界会議＞、大誤算の挙句の大盛況
純ちゃんの“遺徳”？

安藤　博

競馬狂が外れ馬券を悔し紛れでちぎって撒き散らすように、抱え込んで売りそこない配りそこなった＜9 条世界会議＞の入場券ひとつかみを撒き散らそうとして、ふと思った、「紙くずになったとはいえ、１枚１，０００円だったのだ」と。未練たらしく、まだどこかに残してある。

＜世界会議＞実行委員の末席に連なり、開催費に赤字が出ればそれを埋める財政責任がかぶってくるという“恐怖”もあって、グッズ売り、チケット販売に精出した１年だった。もちろん、チケット１枚が、「憲法なんか関係ないよ」と思っているような若者などを含めて、幕張メッセの会場にひとびとつなぐことを期待すればこその“9 条商法”である。しかし、自分が本当に「売った」のは、つまり「9 条」のためにお金を出そうというひとを得た数は、140 ぐらいだろう。こころやさしい教会の信者の方などに泣きついたりしての目いっぱいで、そんなところにしかならない。あとは、半ば義務的に抱え込んだのを捌きあぐね、安易にばら撒いてしまった。何かをねらって人を動かすことのできる己の‘器’が、こんなものかと思い知らされた。

そうした自分のしょぼくれた思いとは裏腹に、世界会議は歴史的というべき大盛況になった。「5 月４、５両日で 10,000 人」の掛け声に対して、開催前日の夕刻まで「よくて半分」と青くなっていたのが、蓋を開ければなんと二日合わせて 20,000 人。前売り券を持った 3,500 人に「満員、入場お断り」を食らわすまでで、少なくとも人数の上では大成功となった（合計 1144 人に払い戻し）。

開催費は、実行委発足時の予算を 2,000 万円近く超過する 68,955,645 円に及ぶ（6 月 5 日の実行委員会現在積算）。「とても責任もてないよ」と逃げ出したほどの“放漫財政”だが、大盛況下にグッズが売れカンパも伸びて、どうやら大赤字は免れそうだ。

あれからもう 2 ヶ月近く。“狼少年”のチケット売りと、売っておきながら入場させなかった“詐欺”のお詫びも一段落したが、いまだに大誤算の挙句の大盛況の原因をつかみかねている。万事を“結果オーライ”にしてしまうことのないようにと念ずるなかで、１つ思うのは、「憲法９条を護ろう」だけの大盛況ではなかったということである。つまり、政治・社会状況が一つ違えば、自分も他の多くの関係者も心中思っていたような「会場がらがら」の惨状となったかもしれない、そうならなかったのは、＜９条＞のご威光とわれわれの努力の賜物だけではなかった、そう考えるようにしている。

＜世界会議＞ホームページに、大盛況は以下のように報告されている。

「５月４～６日、幕張メッセで開催された『９条世界会議』には、のべ２万人を超える人たちが来訪しました。初日の全体会には１２，０００人が参加し、ほか３，０００人が満員のため入場いただけませんでした。２日目の分科会には６，５００人が参加し、当日券完売のため５００人が入場できませんでした。３日目のまとめ総会には、３００人が参加しました」

全国（東京、広島、大阪、仙台）で来場者３３，９００人（うち幕張では、４、５日合わせて３，５００人が入場不能）という大盛況も、「様子見」のような特殊な目的を持った人を除き、＜改憲派＞までを引き込んだものではなかろう。しかしまた、旧来のいわゆる＜護憲派＞、つまり前日３日の憲法記念日集会と“連荘”するようなひとびとだけではないことも確かだろう。もう少し広い、＜９条＞に関する“浮動層”ともいうべき部分を、かなり引き付けることができたのではなかろうか。若者、中高年者双方である。

「会場がらがらか」という前日までの大誤算は、９条に対するひとびとの思いの強さを“見くびる”という、「護憲」を唱える者の一種の傲慢さから生じたといえよう。しかし、それにしても、そうした「９条に対するひとびとの思い」が、何故幕張という足の便の悪いところにまで実際にひとを動かすことにつながったのか。その背景はなにか。

名古屋高裁が、航空自衛隊のイラク戦場への兵員輸送を憲法違反としたことは、米国の平和活動家コーラ・ワイズさんの基調講演のなかでも指摘された。この違憲判決を無視して日本政府がイラクでの戦争に加担し続けていることなどに対する批判・怒りが、多くのひとを＜９条＞のもとに集める誘引になったのは確かだろう。

しかし、こうした憲法に直結する事柄だけであれほどの大盛況を生むとは、どうも考えにくい。それだけではなく、自民党内でも「残酷な姥捨て」と強い批判を呼んでいる「後期高齢者」の医療制度や道路利権につながるガソリン税問題などに関して、政治への不満・不安が広がっていることが、＜９条＞を護持し世界に向けて広げていくというこのイベントへの共感につながっているだろう。

昨年来の建築構造手抜きや食品の産地偽装などの企業悪がいまだに後を絶たずにいるなかで、エネルギー価格高騰により各種の生活物資が値上がりしている。こうしたことなども、政治への「怒り」に上乗せされているだろう。そうした様々なことに対する不満・怒りをぶつけるシンボルとして、「９条を世界に」が空前とも言えるほどの人の流れを生み出したのではなかろうか。

もちろん、自民党政権に対する鬱積したものがその中心であろう。それは、昨年秋の参院選に表れた「反自民」の潮流につながっているに違いない。

＜世界会議＞２日目の５月５日、わたしたち＜非暴力平和隊・日本＞は、「紛争地で活かす９条」と題するワークショップを開催した。“閑古鳥鳴く”さびしい集まりになるのを恐れて、わが家のカミさん、その同窓生、となりの奥さんなど１０人ほどをしゃにむに動員したのだが、それがなんと、NPJ 創設（２００３年）以来初めての、１００人を大きく上回る満員となった。＜世界会議＞の大盛況をいわば借景として、当方の自力では及ばないほどの多数参加が実現したのである。

「世界会議」もまた、＜憲法９条の世界化＞以前の、日本の政治・社会状況に対する不満・不安・怒りの後押しを受け、主催者の予測を超えた大盛況を勝ち取ったのかもしれない。であれば、その最大の貢献者は、“後期高齢者姥捨て“制度を導入したことなどで、いまでは自民党内でも「負の遺産」をあからさまに言われるようになった「純ちゃん」こと小泉政権であろう。

とはいえ、憲法９条を改変しようとする勢力は、表面上浮き沈みしても、極めて根強いものである。＜世界会議＞での＜９条世界化＞に向けての高揚をよそに、いつでも政治的に浮上する可能性があろう。

改憲勢力を、「兵器産業利権につながる者」「右翼・軍国主義者」などと限定・単純化するのは大間違いである。すぐ隣に住んでいる善良なひとたちの中に、しっかり根を下ろしているはずである。＜９条＞が唱える「戦争の放棄」「非暴力の平和」は、そうしたひとたちの持つ“世間の常識“に対しては上滑りして独りよがりに陥る危険さえある。

選挙と同じく９条の“浮動層“も、一つ状況が違えば改憲に振れていくだろう。有事法制や改憲のための国民投票法制定を強く後押しした「北の脅威」は、言い古されてこのところ緊迫感も褪せている。しかしたとえば「またもや核、ミサイル実験」といった悪さを“北“が敢行したりすれば、「幕張メッセの感動」は一時の華やぎに終わり、一転、＜９条＞を「現実離れの空論」とする流れが勢いを持つだろう。

「世界は９条を選びはじめた」という＜世界会議＞のキャッチフレーズを、「テロ対策」を唱えて軍事に傾きがちな世界各国に広くいきわたらせていくには、なによりわたしたちの足元で、日米軍事同盟の「世界化」に強い歯止めをかけていかねばなるまい。

（インターネット新聞〈JanJan〉、2008/06/07 掲載稿をもとにしている）

ラム・マニヴァナン氏に同行して

共同代表　大畑豊

広島原爆ドームの前で―右は大畑

NP 国際理事のラムさんとはインドでの NP 設立総会、そしてナイロビでの総会でもお会いしていて話しもしているが、招聘するにあたり「どんな人？」と聞かれると「大学の先生で、朝はヨガして、穏やかな人」としか説明できなかった。改めて氏のプロフィールを送ってもらい、マドラス大学准教授、同大学マハトマ・ガンジー平和紛争解決センター理事、「国境なき教師」共同設立者、チベット亡命政府教育委員会顧問等々のたくさんのことに関わっていることを知らされた。また農村における教育・公正開発のためのプログラム「ブッダの微笑み」設立者であるが、これは 1974 年にインド政府が初めて行なった核実験の名でもあり、実験への抗議とブッダの名誉回復のため同名の教育プロジェクトを始めた、とのことだった。

さて、９条世界会議でのラムさんの発言などについては前田理事の「巻頭言」に譲り、その他のラムさんの滞在の様子を簡単にご報告したい。ラムさんは 5 月 3 日夜にマレーシア、香港経由で成田空港についたが、長旅の疲れも見せず、4･5 日の会議をこなしてくれた。簡単な歓迎会をするにあたり、食事のことを聞くと、一日二食、野菜と魚、アルコールは基本的にとらない、とのことだったが、他の文化圏に行ったときにはこの限りではないとのことで、安藤事務局長がただ近いということだけで予約していた焼き鳥屋さんで行なった。

送迎会のあと一旦ホテルに戻り別の宿舎へ移動となったのだが、ホテルから出来たラムさんは裸足だった。どうも靴の底がはがれてしまったようで、丁度持っていたサンダルを貸そうとしたら、インドでは裸足だからと気にもせず、電車にも裸足で乗って移動することに。

翌 6 日朝、富士山の真上を飛んで広島へ。来日に当たって要望を聞くと唯一の願望が広島原爆ドーム行きだった。数十年来、ヒロシマへ平和の祈りを捧げることが願いだったそうで、ドーム前に着いたときには、しばし祈りを捧げるとともに涙ぐんでさえいた。氏の原爆の犠牲者への深い悲しみと、人間の愚かな行為への憤り、平和への熱い想いを感じた一瞬でもあった。原爆資料館では理事長のスティーブ氏にお会いし、インドを取り巻く状況や反核運動、共同プロジェクトの可能性などについて話し合われた。

この夜は「グローイングピース」というソフトエネルギー関連の事業をしている石岡氏宅にお世話になった。９条ピースウォークの実行委員の一人でもあり、チラシはデザイナーをしているお連れ合いの作でもある。３世代で伝統的な農家に住んでおり、翌朝には皆でヨガをしたりし、散策

を楽しんだりしてのんびりと過ごし東京に戻った。

８日には茨城県八郷町にある、ガンジー思想に根ざした自立・自給の農業を学ぶ「スワラジ学園」を訪ねた。お昼にはお餅をついてくれ、初めて見るお餅つきに興味津々の様子だった。午後には国連大学・平和とガバナンスプログラム担当者との共同プロジェクトの打合せをこなした。帰りには丁度近くにある日本山妙法寺（NP 賛同団体）に寄り、夕食を一緒にいただきながらインド、チベット等の状況や同寺とインドのつながりなどについて話題は尽きなかった。９日は、国連大学前でのビルマ人によるアピール行動に参加。インドでもビルマ民主化運動に関わっているので貴重なコンタクトをつけることができたようだ。そのあと阿木理事が講師をする予備校で生徒さんたちと歓談する機会を持った。

10 日には成田でタネの保存運動をしている知人が農村や食に関する教育活動をしている団体に招いてくれ、出発間際まで忙しい時間を過ごしたが、常に笑顔で、謙虚な姿勢に周りの人びとも和み、短い期間ではあったが日本各地に非暴力のタネをまいていってくれたと思う。

日本山妙法寺で

日本での滞在　　NP 国際理事（インド）

ラム・マニヴァナン

2008 年 5 月 4～6 日にピースボートなどが主催して東京で行なわれた 9 条世界会議に参加する機会に恵まれました。また NPJ に招聘され、この会議に参加するとともに NPJ 主催のワークショップにおいて、世界に広がる非暴力運動の力について報告させていただきました。

世界 9 条会議は日本国内外の多くの人びとが集まったという点だけでなく、世界中の人びとに 9 条のような条項を自国の憲法に書き込むよう要求しようという気持ちを起こさせたという点でも成功したといえます。

NPJ 主催の世界における非暴力運動の今日的妥当性に関するワークショップにも多くの参加者があり、日本人その他の国々の参加者に非暴力平和隊の活動と理念を知ってもらうことのみならず、非暴力活動が今日でも有効な選択肢なのだということを考えてもらえることができたと思います。

また私の「ガンジーと戦争廃絶」という講演に対して、会場から的を得た質問もたくさん出てうれしくおもいました。こうした創造的な交流のほかにも、NPJ の礼儀正しく、心温まる親切な対応に感謝致します。NPJ のメンバーの方々との会合や、彼（女）らの平和と友情に対する熱意を感じることができました。心からお礼申し上げます。私は皆さんの平和活動が成就されることを祈っています。平和活動に従事する人は

祝福された人びとであると信じています。なぜなら平和の仕事は神の仕事でもあるからです。

今回の日本訪問は、私の長年の願いであったヒロシマ訪問、そして原爆犠牲者の方々への私のささやかな祈りを捧げることができたという意味においてもたいへん重要なものでした。私は５月６日朝に広島に到着しました。私と、私の今回のツアーにずっと同行してくれた大畑さんにとってたいへん厳かな祈りの時間でもありました。このヒロシマでの印象を詩にしましたので、次号ニュースレターでみなさんにお読みいただければと存じます。

私はまた広島市内から少し離れた素晴らしい家族を訪れ、ともに過ごす素晴らしい機会も与えられました。この家族の家に泊らしていただくことにより、日本の文化、歴史、人びとについて書かれた本を読むよりも、日本の価値観や伝統に対してより深い理解と尊敬の念を得ることができました。そこの祖父母たちによるお茶会にも招かれ、息子夫婦や孫たち、友人らが共に参加しました。とても感動的な滞在であり、その素敵な家族や村から離れるときにはとても悲しい気持ちになりました。

スワラジというガンジーを信奉している方の団体も訪れましたが、彼らの仕事は日本国内にいろいろな示唆を与えてくれています。また、そこで、食や農などの日本文化と生活を学ぶ活動としている団体が主催で、子どもたちが伝統的な田植えの作業をしている様子も目にしました。

いろいろ学んびの多い訪問でした。世界的な平和や非暴力運動に従事している人びととの交流や会合で有意義に過ごすことができました。ヒロシマを訪れ、長年の願いであった祈りを捧げることができました。日本の美しい面を見ることが出来ました。平和活動にいそしむ人たち、伝統を守っていこうとする家族、田んぼで田植えをする子どもたち、芸術的な人々、活動家や友人たち。これらの出会いは NPJ の忍耐と親切さに負うことが多かったと思います。

今度はぜひこれら友人や平和活動家、教師、生徒さんたちにインドを訪れていただき、ヒマラヤでの（メディテーション）ウォークやガンジー・エジュケーション・キャンプにも参加していただきたいと思います。共に実り多い体験ができると思います。　（翻訳：大畑豊）

スティーブ氏、岡本氏と（原爆資料館）

Ω

【9条世界会議、幕張メッセに参加させて頂いて】

―支援に繋がるDVD、CD創作について、アドバイス、お力添え頂けましたら有難いです―　　NPJ会員　森田留美

私にとって、ピースボートへの乗船が「平和活動」というものがこの世にあり、その為に人生をかけて頑張っていらっしゃる方々がいらっしゃるという事実を認識し、何もしていない自分を恥ずかしいと感じ、音楽を平和に役立てらたら良いなと考え始めたきっかけでした。

マイレッド・マグワイアさんと

そして「イラク派兵は違憲市民訴訟の会東京」の箱根での合宿で、岡本三夫先生の「原爆詩を歌ってみませんか」とのお言葉が、私の人生を変えました。

今回、懐かしいピースボートの皆さんが中心となって頑張っていらっしゃる<9条世界会議>で、是非原爆詩やオリジナルの9条の歌を創作して歌いたいと思い、ピースボート事務所で話してみました。と、「自主企画に応募して下さい」と言われたのです。団体でなければ応募資格がなかったので「被爆アオギリを植え広げる会大阪」の名義をかして頂き、単独で自主企画に応募致しました。

又、非暴力平和隊の総会の時に「9条世界会議、幕張メッセでの非暴力平和隊ワークショップで歌って」とおっしゃって頂き、とても嬉しく思って居りました。

そして、9条世界会議の時、安藤博先生が重い重～いキーボードを南砂町のマンションから、幕張メッセまで運んで下さったのです。どうしようかと途方にくれていたので、恐縮でしたがご厚意に甘え、とてもとても助かりました！

本当にありがとうございました！！

極超忙しく縁の下力持ちとして、お家でゲストの方々の宿泊から、様々な雑用に追いまくられながら、びくともせず、ずっとご活躍、働き続けていらっしゃる安藤先生の後ろ姿、非暴力平和隊の皆々様が知恵と力をだしあって、非暴力平和隊の運動を広げる為に努力を重ねていらっしゃるお姿に感動感服致しました。

「一人では不可能な事も、皆で力をあわせると現実化出来るのだ、この輪を広げて行く事で、何時の日にか、世界が非暴力で平和を構築出来る」と信じて行動していく事が何より大切なのだと感じました！

当日、9条世界会議は、大変な人出で、9条を大切に思っている人々、平和を愛する人々が沢山いらっしゃる事を実感し、今が大切な時だと肌で感じました。

私は難しい事は解らないけれど、興味のないかたが、ふと目にとめ、何かしら？と、聞いて見て下さる導入、或いは、難しい議論の合間のリフレッシュ、活動していらっしゃる方々のテンションを高め、繋がって前進していく、養分になる様な、歌、パフォーマンスでお役にたてたら良いなと思いました。

ところで、私の自主企画は朝一番のステージで、最初は空席もあり、残念でしたが、

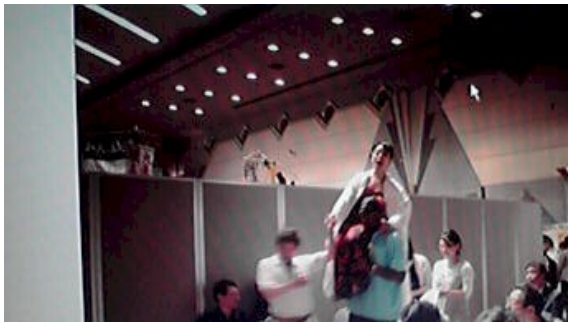
終わる頃には満席になり、心からの温かい拍手が嬉しかったです。
一時間、ぎっしり、てんこ盛りのワンマンショー、着物やドレス、髪型にも変化をもたせ、キーボードの弾き歌い、踊りながらの歌唱、リフトパフォーマンスと、ハードでしたが、全力投球致しました。
プログラムは、以下の通りです。
【☆9条条文入り、オリジナル曲「9条ピースウォーク」を180センチのラップ“ファンデーション”の男性の肩の上で歌うリフトパフォーマンス
☆栗原貞子先生の原爆詩
「ヒロシマというとき」
「生ましめんかな」オリジナル即興弾き歌い
☆パワーポイントを使って、りぼんぷろじぇくと制作の絵本
「戦争のつくりかた」
・篠田有史氏メキシコのストリートチルドレンの写真とのコラボレーション
オリジナル即興弾き歌い。
☆御庄博実先生のイラク劣化ウランについての原爆詩「やかれる大地」・
名古屋判決、「9条は生きてきた」
オリジナル即興弾き歌い。
☆カッチーニ「アベマリア」・
オペレッタ“マリッツァ伯爵夫人”より
「ジプシーのバイオリンを聞くと」
演技振り付き独唱
☆沼田鈴子さんから9条世界会議へのメッセージDVD上映
☆会場の皆さまと「翼を下さい」歌唱】

私は以前、岡本先生が「非暴力平和隊に入りませんか」とおっしゃった時、〈非暴力平和隊〉という名前にとても惹かれ「何をするのかしら、非暴力平和隊ってどんなものだろう」と思いましたので、多分、9条世界会議でも、〈非暴力平和隊〉ってどんなものだろう？と、名前にまず興味を持って、参加された方がいらっしゃったと思います。満席で、立ち見も出て、資料も足りなくて、安藤先生達が走り回っていらっしゃいました。ラム先生の前向きなお話、ビデオ、他人の話をしっかり聞く等実習が心に残りました。
ニューズレター22号で、人の集まりを心配なさっていらっしゃる文章を拝見しましたが、入場出来なかった方々への配慮について、悩む結果となった事、予想を遥かに上回る人々が、9条を大切に思って、幕張メッセに沢山集結した事に感動致しました。物凄い赤字もないと伺い、本当に嬉しいです！

支援に繋がるDVD、CDを創るのも、私の夢です。今、第1号を9条世界会議で広めさせていただきました。出来る限り安価にして、沢山の方々に広め、聞いて頂きたいのです。今のところ千円以上のカンパでお分けし、五百円を支援に回していきたく思って居ります。1号はテーマを絞らず 原爆詩、ストリートチルドレン、被爆アオギリ、劣化ウラン、憲法9条、二胡とのセッション、オペレッタ、ミュージカル
と、てんこ盛り内容になって居りますが、例えば、第二号は非暴力平和隊にテーマを絞った、非暴力平和隊の支援に繋がるDVD、CDを是非創作出来たら良いなと思って居ります。どうぞよろしくお願いいたします！

22号を読まれて、お手紙で詩を下さった大石裕子さま、遅れてごめんなさい！創作させていただきますので、もう少しお待ち下さいませ。

今後共、どうぞよろしくご指導下さいませ！お読み下さり、ありがとうございました！


自主企画でのリフトパフォーマンス

休戦協定破棄・自爆テロ頻発下の NP 活動

―徳留由美さん語る―

赴任地のスリランカから鹿児島県加世田の実家に休暇帰省中の徳留由美さんに、スリランカ活動約半年の経過・近況を伺いました。

21 日土曜日夕刻、鹿児島中央駅まで車で約 1 時間のところを出向いていただき、同席を求めた地元紙、『南日本新聞』の記者と一緒に約 1 時間半のインタビュウをしました。

徳留さんは、約一ヶ月の休暇を終えて 7 月 7 日帰任されます。以下、質疑の要点を記します。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・　この約半年間、どのようなことに携わってきましたか？

誘拐されて少年兵にされたこどもたちを保護する活動（チャイルド・プロテクション）が、大きな割合を占めています。主として LTTE から逃げ出してきたこどもです（LTTE 以外にも、その分派、＜カルナグループ＞=K グループに誘拐少年を誘拐して兵士にしていて、スリランカ政府はこちらの方は黙認していると言われています）比較的治安がいいところにかくまい、トレーニングが受けられるようにするのです。

私が赴任後最初に保護の仕事で関わったのは、17 歳の少年で、保護を受け入れてくれた教会まで、同僚たちと同行しました。１５歳で誘拐されて兵隊にされたのですが、実質六ヶ月くらいの訓練を受けただけで逃げ出し、あちこち身をひそめていました。一度はインドネシアに移ろうとしました。しかし、あくどい旅行会社にだまされてわずかな滞在期間しかないビザで行ったため、すぐインドネシアの移民局に捕まって送還されてしまう―そうした状況にあったのを、お母さんとおばあちゃんとが NP のトリンコマリ事務所に助けを求めてきたのです。

2008 年 1 月 2 日、この小年を保護先まで FTM の車で一人のメンバーとともに連れていきました。行き先の町の名前は秘します。LTTE などにつかまれば、当人より親に手が伸びる恐れかあります。

このような逃亡少年兵の保護を、全てどこかが受け入れてくれるとは限りません。それぞれいろいろな問題を抱えているし、保護した先にいる他の少年たちを危険にさらす恐れもあります。

難民ビザ申請のために役所に行く女性に同行したこともあります。

地域の選挙が正常に行われるかどうかを見守る活動もあります。2008 年 5 月 10 日に東海岸地域で選挙がありました。投票所で一触即発といった場面がありました。候補者の一人が支持者たちと連れ立って投票所に立ち入ろうとしたのです。警察官は当然制止します。銃が使われかねないようなかなり緊張した状況になりました。NP

事務所は、投票終了とともにそうした緊迫した事態になることを予想して、警備を強化するようあらかじめ警察に伝えていました。その場面は幸いことなきを得ましたが、その場に行っていた私たちはかなり緊張しました。

・ 2008年初頭の休戦協定破棄で、日本国内ではスリランカ・プロジェクトはお終いだという見方がある一方、協定破棄以前から休戦は事実上終わっていたのだから、協定が無効になってもさしたる変化はないというのと、双方の見方がありました。休戦協定破棄後、自爆テロが頻発していることなど日本でも伝えられていますが、ご自分の周辺では爆弾テロが多くなるなど、かなり危険を感じるようになりましたか？

トリンコマリは、やや特別で、最も安全なところと言えるでしょう。なにしろ軍隊が多いのです。陸軍の基地があり、海軍の軍港もあります。

私たち現場では、テロがあるとすればそれは首都コロンボに集中するだろうし、とくにトリンコマリは軍隊が多くてセキュリティも高いので、特に危険が増すようなことはなかろうとみています。

もっとも、市街地の外では殺し合いや誘拐などもあるようです。「テロ」という言葉をあまり使いたくはないのですが、毎日のように爆弾テロなどが報じられています。

・ テロ行為は、もっぱらLTTE側が仕掛けているのですか？

Kグループが、LTTEに罪をかぶせるためにしていることもあるとされています。政府軍の LTTE 攻撃の口実をつくるためというのです。いずれの場合にせよ、巻き添えになって被害をうけるのは一般市民です。

・赴任の前と後とで、スリランカ現地の状況についての判断はどのように違っていますか？

私はたまたまスリランカの前にミンダナオに行っていましたが、ミンダナオは活動を開始したばかりでほとんどなにもない。スリランカは地域のひとびとが NP のことを知っている、困ったことがあれば訴えてきます。中には、おカネ、食物をもらえるのかと間違ってくるような人もいますが。

トリンコマリの国連機関のような大きなところに行くよりも、気安いといったこともあるようです。国連機関などにいったりすると、スリランカ政府に話しがいったりしてややこしいことになりかねない、むしろそっとしておいて欲しいといった気持ちで NP 事務所にやって来るといったことがあることもわかりました。

文字通り「草の根」のNGO活動であるわけですが、もちろん、少年兵の問題などであれば、相手が落ち着いたとことでその問題を本格的に担当するユニセフに保護のための登録に行くよう薦めるといったことをしています。児童保護の問題ではユニセフ、Save the Children などの団体と互いに補い合っているわけです。

日本でいう“幼な婚”の問題もあります。難民キャンプなどにいてこども養えなくなり、正式の結婚が法的に許されない幼い子を結婚させてしまうようなことがある。少年兵に取られそうになるのを、結婚しているからというので免れることができるといったこともあるようです。そうした幼な婚の二人にこどもが生まれると出生届が認められない。そうすると学校に入れない。

児童保護などに関わっている現地の団体から、“幼な婚”や児童虐待をなくすためのキャンペーン活動をする際に、政府軍や警察にチェックポイントで止められたりするのを避けるため、同行・プレゼンスを求められることがあります。たとえば、そうした幼な婚問題などを内容とするストリート・ドラマが行なわれるようなときです。唄を歌って地域を廻り人集めをすることから始まります。パフォーマンスを難民のひとたちとが見ていると、兵隊が寄ってくる。私たちは「こんちわ」と声をかけてそれを遣り過ごす―そうした「護衛的同行」もあるのです。

幼な婚問題のデモでのプレゼンス

・ NP 活動の原則は、あらゆることに偏りをもたない（nonpartisan）ことですが、支援対象のほとんどは多数派のシンハラ族ではなくタリム族ですね？

モスリムもサポート対象になっています。私たちとしては民族間の壁を無くすことにいつも気をつけていて、たとえば庭野平和財団支援のワークショップが行なわれたときなど、シンハラを含めた三つのピースコミュニティからそれぞれ来てもらうような配慮をしました。

・ 国内の紛争状況はどの程度にマスコミなどで伝えられていますか？

様々な報道がありますが、伏せられていることもあるようです。東海岸地域選挙当日の午前２時１５分に「ドーン」という大きな爆音がして、これが反政府派による軍港に停泊中の軍艦への爆弾攻撃で 47 人が死んだと後で知りました。国営放送や新聞では全く報じられませんでしたが、近くにいるわたちしたちには地元のひとからすぐに聞かされました。

・ NP トリンコマリ事務所の陣容はいまどうなっていますか？

休暇や病気で出入りするひとがかなり多いためはっきり言えないのですが、パキスタン（男、現地事務所トップ）、ポルトガル（男）、エジプト（女）、コロンビア（男）、イタリア（男）、そして間もなく辞めるの

ではないかとされているルアンダ（男）の各国から、それに私の計７人です。

・　現地スタッフは？

「ナショナル・スタッフ」は、フィールド・オフィサー（ムスリム）、通訳 2 人（シンハラ、タミル）、ドライバー２人（同前）、ケア・テイカー１人（タミル）です。ドライバーなど、違う人種のところには行きたがらないということもあって、双方を雇っています。

・　スリランカのこと、NP のスリランカ活動のことは、日本ではあまり知られていません。日本に向けて特に伝えたいとおもうことがありますか？

友人などが、ネットでわたしのことを調べてメールを送ってくれたりするととてもうれしく思いますが、私自身は「日本人として」活動しているという意識はあまりありません。NP の一単位としての活動をしているのです。

ただ、できるだけ多くのひとに NP 活動を知ってもらいたいと思うのです。日本人の税金をスリランカ援助のためにかなり沢山使っているのですから、それがどのように使われているかに関心を持って欲しいのです。援助金は当然一旦は政府に渡されるわけですが、それが一般市民のために本当に役立っているかどうかを、十分にチェックして欲しいと思います。

日本人はお金持ちと思われていますが、その日本からの援助が草の根に届いていないと思われれば、LTTE など反政府側からはわたしの活動がどうしても政府寄りと思われてしまうのです。

・半年間の現地活動を振り返ってどのようなどのようなことを感じていますか？

なにより、少年兵保護を、それぞれの子どもの事情に応じて的確に行なうようにするにはどうしたらよいかです。

少年兵が軍隊から離れてくるには３つの理由があります。一つは逃亡、そして内戦に加わっていて降伏した場合。さらに、LLTE などから公式に解放された場合です。いずれについても、その後が問題です。それぞれのケースにどう対処するか。降伏の場合は当然刑務所行きですが、それ以外でも政府側からは戦っていた敵として白い目を向けられます。厳しい状況が待っています。

こどもたちそれぞれも、どれだけ期間誘拐されて兵役に就かされていたかで、ずいぶん違いがあります。人格形成の一番大切な時期のことですから、それぞれのメンタリティに相当な差があり、カウンセリングにしても違った方法を考えねばなりません。同じ場所に保護されて暮らすような場合、長く兵隊をさせられていたこどもは、どうしても暴力的になりがちです。

わたしたち NP など国際 NGO も、ユニセフ、Save the Children などの児童保護団体や政府の児童保護機関などと協力して保護のためのプログラム立案にかかって

います。先ずは、安全なところにかくまうこと、そして、和平が実現したときにちゃんと社会復帰ができるような訓練をしていく必要があります。また受け入れ場所をちゃんと作っていくこと。それがないと、お酒や麻薬におぼれ、また暴力にはしって社会から外れていってしまします。なにしろ武器だけが頼りで、武器なしでは不安で仕方がないような生活を送ってきたわけですから。

こうした問題は本来政府が行なうべきことでしょう。しかし政府は、津波被害者にはきれいな居住施設を提供したりしてわりに手厚い保護をしていますが、少年兵を含め紛争から逃げてきた難民には概して冷たいのです。大多数はタミル人ですから。わたしたち国際NGOも、そうしたした難民キャンプにはなかなか近づけません。

難民キャンプで現地スタッフと

・　日本大使館とのコンタクトはありますか？

選挙のときの状況報告など、かなり頻繁にやりとりをしています。大使館のひとは大変細かく気を遣ってくれています。この２月、コロンボ近くでシンハラ、タミル共同の友好マラソン大会が開催された際、スタート直後に爆弾テロが起きて出席していた国土交通大臣などが殺されるという事件があったときは、「いまコロンボに向かってのでないか？」と携帯電話に安全確認の連絡をしてくれました。

・　「日本」についての現地のひとたちの一般的受けとめ方はどうですか？

概してよくて、明石さんの名前を広く知られています。わたしが日本から来ていると知ると「へえ、明石さんと同じくにからか」といったように言われたりします。

・　NPスリランカ活動に対する＜第三者評価レポート＞(2003年後半―2007年後半、2007年8月提出）をどう思いますか？

多くの点で同感です。たとえば、マネジメントと現場活動者とが、活動の目標について合意がない（”No targets are agreed on”）といった点。マネジメントは現場に活動目標を打ち出すことを期待するでしょうが、現場は先のことよりいま目前にある問題の解決でていっぱいです。

現地スタッフが大きな危険にさらされている(“Sri Lankan stsff is much more exposed to danger”)ことが強調されているのは、とても大切だと思います。彼らは、フランスの NOG＜ACF＞（「飢餓に対する行

動」）の現地スタッフ 17 人が、フランス人スタッフが活動を止めてしまったあと虐殺された近年の事件の記憶などから、自分たちがその二の舞になりはしないかと、いつも不安に思っています。

・日常生活について伺います。お住まいは？

２箇所です。特に男女で分けるようなことはせず、空いた部屋に新しく来た者が入って暮らすようにしています。通勤は車で 5 分くらい。歩いて行けないわけではありませんが、夜中に緊急時が起きたりするのに備えてレジデンスには車を置くようにしています。

・　「定時」の出勤ですか？

一応 9 時からです。ただ、「プロテクション・ミーティング」が朝からあるようなときはそこに直行しますから、FTM がみなそろうようなことはめったにありません。

・　食事は？

朝はめいめい自炊です。昼は、その日事務所にいる FTM が 200 円ずつ出し合ってカレーなどを作ります。3 人で 600 円集めれば 8 人分ぐらいの昼食が作れます。それで、現地スタッフの食費を 1 食分節約してあげることができます。夜も自炊です。

・　帰宅は？

勤務時間は午後 5 時となっていて、たいていすぐ帰りますが、それからレポート書きです。毎晩のことで、これが大変です。

・　休日は？

週末の土曜、日曜と国民の祝日です。しかし、土日もレポート書きに追われるので、いつが休みなのか、はっきりしません。

・　映画に行くなどということはできませんね？

全くできません。自分が持ってきた DVD をノートパソコンで見るくらいです。今回も帰任するときはいっぱい持っていくつもりです。街に外国人向けの飲むところもあるのですが、ユニセフなど国連職員に比べて薄給のわたしたちには高くて行けません。週末はとにかく自宅でゆっくりするのが第一です。

・　ご自身の今後のスケジュールは？

任期はことし 12 月いっぱいです。その後任期を更新するか、また更新したとしてその配属先がウガンダなど別の国になるか、スリランカ国内だとしても別の場所になるかーこれらは全く未定です。

護衛的同行の一コマ　　Ω

「国際理事会」ニュース　　阿木幸男

1．国際理事会は国際電話（スカイプ）を使用して、隔月に開催。6 月17日の会議は日本時間、22 時にスタート。終了は 18 日の1：30。会議は英語で、国際理事の他に、事務局長のメル・ダンカンや、資金獲得キャンペーン担当のキムも参加。

アメリカ、ケニヤ、イスラエル、スペイン、日本の理事の他に、新理事のジョビワット（女性。ケニヤ）が 4 月に辞任したジョン・スチュワート（ジンバブエ）の代わりに。

2．新「国際デイレクター」の募集始まる。応募締め切りは 7 月 7 日。書類審査、面説を経て、今年の11月には選出の予定。

その時点でメル・ダンカンはNP事務局長の任から降り、何らかの新たな担当をして、事務局をサポートするようだ。

3．国際理事会は3委員会を設立。「財政委員会」、「ミッシヨン達成委員会」（主に、新国際デイレクター選出プロセスを担当）、「執行委員会」。阿木は「財政委員会」に参加。

4．6 月中旬、ニューヨーク市で国連、ユニセフ関係者むけ、「NP活動説明レセプション」を開催する。メル・ダンカン、ダビッドグラント、アテイフ（ミンダナオプロジェクト代表）らが参加予定。（右記参照）

5．6月の初め、国際理事、エリックを中心にボストンでNP非暴力トレーニングを実施。約25名参加。これからも各地で、非暴力トレーニングを開催予定。

南米では、コスタリカで、国際理事、テオ(ボリビア)が非暴力トレーニングワークショップを5月に実施。

Ω

ミンダナオ・プロジェクトの現況

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

Nonviolent Peaceforce

Cordially invites you to join us

for a Private Reception

on Wednesday, June 25th, 2008

4:30 to 6:00 PM

at the UNICEF Headquarters

Danny Kaye Room – First Floor

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

6 月 13 日、会員用 ML に掲載された上記の招待状お気づきでしたでしょうか？この NP 主催のレセプションは、国連安保理の NGO ワーキング・グループの代表者（アムネスティ、人権監視、国境なき医師団、セーブザチルドレンほか25の NGO）を招待したものですが、これにミンダナオ・プロジェクトの責任者アティフ・ハミードも参加しています。前日の 24 日夜には、アティフによる報告会兼募金集会が予定されており、食事込みの参加費は 125 ドル（内課税控除の寄付 50ドル）で、さらに会場でも寄付をお願いしているようです。

ミンダナオでの政府とモロイスラム戦線との和平交渉に進展は見られませんが、スールー、マギンダナオ、コタバト 3 拠点の NP の活動は着々と足場を固めています。4 月にフィリピン政府により自宅軟禁されていたモロ民族解放戦線の創設者であり議長のヌル・ミスアリが保釈されました。アティフと地域パートナーは早速ケソン市に同氏を訪問しました。同氏はモロ社会、特にスールー地域に影響力を持っており、NP の今後の活動をより一層強固にするものと思われます。

Ω

NPJ 中期計画を決定

事務局長　安藤博

2008 年当初以来懸案となっていた非暴力平和隊・日本の中期計画が、3、6月二回の理事会にまたがる検討を経て、下記の通り決定されました（2008/6/30 付け）。この計画の一項である「会員拡大」に関しては、6月理事会に向けて行なわれた君島・共同代表の提案に即して＜会員拡大戦略チーム＞が、他の市民団体の成功例を調査して具体策をまとめ、7 月中旬を目処に理事会に報告することになっています。

いうまでもなく、「計画」は単なるお題目ではありません。先ず目標がはっきりしていなければなりません。NPJ 計画についていえば、それは＜非暴力平和＞の達成という NP 全体の理念に即して、日本で所定の計画期間にどういう活動を行おうとするかを明示することです。

「計画」はまた、単に「がんばろう」といったことでなく、目標達成の具体的手段・方策を示していなければなりません。そして、一番肝心なこととして、計画目標がどの程度達成されているかを年々検証していかねばならず、したがって検証できるような具体的指標を備えていることが必要です。

非暴力平和の活動は、まだ実験段階にあり、その日本での活動を上記のように検証可能なものとして「計画」することは、やさしいことではありません。特に、企業が売り上げ・利益の年次別目標値を立てて達成度を検証していくのと同じように、＜平和＞の達成度を指標化するといったことはそもそも無理なことでしょう。

とはいえ、わたしたちの日々の活動が NP の目指すところに確実につながっていくことを期して、なんらかの計画を持って「計画的に」活動することを試みてみることは決して無理でも無駄でもなかろうと思います。

今回決めた計画をいわば試作品として、より「計画」らしいものに改定してようにしたいと思っています。

【NPJ 中期計画（2008-2012 年度）】

スリランカなどにおける NP の現地活動を支え、また日本が米国との軍事行動一体化や自衛隊戦地派遣の常態化などによって平和憲法に悖る軍事・暴力に傾斜していくことのないよう、「非暴力平和」を日本の社会に広げ、定着させていくことに務める。このため、

・平和をつくる努力をしている・他のグループとの連携に留意する。

・他の NGO、平和団体や、政治家、官僚、研究者などに NP の理念と活動を知らせる機会を作る。

・特に、非暴力平和活動の将来を担う若い世代の大学生、さらには高校生などに影響を与えることを重視する。

・NP 活動をより広い範囲に伝えていくため、外来語の直訳などではない、真に親しみやすい言葉、方法で一般市民との距離を縮めていくよう工夫する。

・NPJ 基盤を強化していくため、全 NPJ メンバーは、それぞれの場・地域、それぞれの方法で新会員を得ることに務める。　Ω

「非武装の PKO」をテキストに

NGO 非暴力平和隊の実践に学ぶ

～～国際紛争に　非武装何か出来るか？　～～

この集まりでは　テキスト「非武装の PKO　NGO 非暴力平和隊の理念と活動」を使い、いわき市～福島県内の会員が　分担して内容の説明を行い、参加された皆様との意見交換を行う、という進め方を予定しています。

テキストをお持ちでない方には　お貸しします。

8／5(火)

(会場) いわき市文化センター

いわき市　　(電話)

START/　pm.　6：00

会費　**500** 円

(テキストをお持ちの方・会場で購入して下さる方は　無料)

《テキスト》

「非武装の PKO　NGO 非暴力平和隊の理念と活動」

発行所　明石書店　　定価　**1800** 円

¤今後の予定

10 月　会津若松市　**12** 月　福島市

2 月　郡山市　　など

? 「非暴力平和隊(NP)」

特別な訓練を受けた非武

が、当事者に招かれて、

で解決する環境をつくりた

まな活動を行なう国際

2002 年インドで設立大

た。「非暴力平和隊·日本」

している国内団体です。

http://www5fbigldbe

? ホントに非暴力的手

できるの？

NPは　2003 年にスリ

始、現在NPメンバーは

更に　フィリッピン・ミ

「地域紛争への非暴力介入の課題と可能性」

―日本平和学会での報告―

共同代表　大畑豊

日本平和学会「2008 年度春季研究大会」が 6 月 14～15 日にかけて東京女子大学で開催されました。このプログラムのなかの「非暴力」分科会において**「地域紛争への非暴力介入の課題と可能性－非暴力平和隊のスリランカでの 5 年間の活動評価」**というタイトルで報告をさせていただきました。報告したのは大橋理事と大畑、それに飛び入り参加してくれた大島みどり理事です。

平和学会では、NP 設立以前に PBI（国際平和旅団）の活動報告をしたことがありますが、NP の活動報告はこれが初めてです。分科会担当者によると土曜日は参加者が少ない傾向あり、10 人かせいぜい 20 人と言われていましたが実際には若い人やスリランカからの留学生も含め 30 人近い人が参加され、熱心な質疑も行なわれました。

NP については初めて聞く人も多かったので、その成り立ちから活動、基本方針などについて一通り説明させていただき、その後、大橋理事が今年２月に訪れたスリランカ・トリンコマリー地区での NP と平和委員会との協働の実際についてパワーポイントを使用して説明しました。大島理事は第一陣として派遣され、プロジェクト立ち上げ当時の困難や実際の活動体験、トレーニングについて報告しました。また 5 年間の活動評価については、去年 9 月のナイロビ総会資料として配布された第三者による評価書（暫定版）を引用しながら進めました。

その評価書で評価されている点としては：コミットして、勇気があり、オープン。スリランカの平和に貢献。NPSL のプレゼンスは重要。他国際団体よりはるかに住民に近く接している組織。

などがあげられ、改善すべき点としては：地元住民の NPSL の役割の理解が不徹底、メンバーのトレーニング不十分。情報収集・分析・知識経験の蓄積安全対策等のシステムが不備。活動が受身、地域（現地）活動家の自立阻害のリスク、（撤退後）プロジェクトからは何が残るべきか

などが指摘されています。この評価書は短期間の滞在で書かれたもので明らかな誤解なども含まれていると思われるので（それゆえ暫定であり NP はまだ承認していない）、その点を指摘しながら大橋理事がコメントしました。

会場からの質問では、使用言語についてや、非暴力の達成感･希望を感じるとき、中立について、トレーニング内容について、危険なことはあったか、万が一のときの対応は、などが寄せられ、強い関心をもって参加されていることを感じました。

また NPJ 会員でパレスチナで活動している中原隆伸さんが一時帰国されており分科会に参加してくれ、パレスチナの地における非暴力活動の難しさなども報告してくれました。

Ω

NPJ2007 年度決算

経常収支

項目	2006 年度実績	2007 年度実績
商品仕入(書籍等)	50,000	0
発送配達費	97,960	85,060
給料手当	360,000	360,000
事務所賃貸料	300,000	300,000
振込料	15,530	16,730
会場費	12,669	55,300
事務費	72,149	136,848
旅費交通費	202,160	409,760
通信費	54,300	50,410
活動支援費	160,000	10,000
ナイロビ総会旅費、宿泊費		420,650
講師費用	142,000	80,000
研修参加費	32,760	0
雑費	50,031	30,262
スリランカ･カンパ		
リーフレット作成費	340,348	
経常支出計	1,889,907	1,955,020

特別収支　　その他

項目	2006 年度実績	2007 年度実績
収入		
庭野平和財団		600,000
大竹財団		500,000
計		1,100,000
支出		
スリランカ送金		600,000
国際理事経費		500,000
計		1,100,000
2007 年度末残高		0

項目	2006 年度実績	2007 年度実績
参加費	29,100	189,519
会費	1,106,000	930,000
カンパ	654,572	847,990
スリランカ･カンパ		
雑収入	67,237	70,736
経常収入計	1,856,909	2,038,245

当期経常収支過不足	−32,998	83,225
前期繰越剰余	1,086,605	1,053,607
今期経常繰越剰余金	1,053,607	1,136,832

特別収支　田中基金

項目	2006 年度実績	2007 年度実績
収入	20,000,000	
支出		
スリランカ送金	8,000,000	4,000,000
NP 国際事務局送金		2,300,000
東アジア日韓会議		1,722,690
支出計	8,000,000	8,022,690
2007 年度末残高		3,977,310

注記：1．2007 年度末、NPJ 資金残高は 5,114,142 円であります。
2．監査については監事のところで作業中であります。

ＮＰＪ主催　講演会・ワークショップのお知らせ　–関東地区－

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

関東地区を対象として、次のような講演会・セミナーを開催いたしますので、友人・知人を誘ってご参加ください。

☆「スリランカ民族抗争の非暴力的な解決」☆

① NPスリランカ・プロジェクト報告

② 民族抗争の背景と問題点、解決への道

日時：2008年7月9日（水）
18：30～20：50

会場：総評会館401会議室
千代田区神田駿河台３－２－１１

講師：中村　尚司
（龍谷大学研究フェロー、アジア太平洋資料センター共同代表）
大畑　豊（NPJ　共同代表）

進行：阿木　幸男（NP国際理事、NPJ理事）

主催：財団法人　大竹財団
非暴力平和隊・日本（NPJ）

・・・1983年以来、多数派民族で政治権力を握るシンハラ人と少数民族のタミル人との間で激しく対立し、戦闘の拡大と停戦交渉が繰り返されてきたスリランカ。民族抗争が武力対立にいたった背景とと問題点、島内と海外の諸勢力の役割、また日本の政府開発援助やNGOによる支援の意義についても触れながら、今年１月に破棄された停戦協定後、非暴力的な解決にむけてどのような道がありうるのかを考えたいと思います。中村尚司氏は京都大学卒業、農学博士。アジア経済研究所時代の１９６５年より４年間当時のセイロン大学に留学以来、日本でスリランカ関係の第一人者として活躍されています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

☆　ワークショップと討論会　☆

「NP スリランカの活動と平和運動の今後を考える」（仮称）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

日時：2008年9月28日（日）
13：00～21：00

会場：代々木オリンピックセンター

進行：阿木　幸男

第１部：ワークショップ

［スリランカでの NP の活動と非暴力的解決の道］（仮称）

13：30～17：00

担当者：大畑豊、大島みどり（第１次スリランカ FTM）、奥本京子（NPJ理事）、大橋祐治（NPJ理事）

第２部：討論会

［平和運動の今とこれからを考える］

―「平和憲法」の可能性、そして、自衛隊、軍事基地のない社会にむけて―（仮称）

18：00～21：00

パネラー：青山正（NPJ 理事）、君島東彦（NPJ 共同代表）、安藤博（NPJ 事務局長）、清末愛沙（NPJ理事）

ゲスト：谷山博史（JVC代表。アフガニスタンで３年間平和活動…予定）

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ワークショップと討論会の詳細はこれから詰める予定です。

会 員 募 集

■非暴力平和隊の理念と活動に賛同・支援してくださる個人および団体を会員として募集しています。入会のお申し込みは、**郵便振替、銀行振込、非暴力平和隊･日本ウェブサイトの「入会申し込みフォーム」**をご利用下さいますようお願いいたします。

◎正会員（議決権あり）
- 一般個人：１万円
- 学生個人：３千円

＊ 団体は正会員にはなれません。

◎賛助会員（議決権なし）
- 一般個人：５千円（１口）
- 学生個人：２千円（１口）
- 団体　：１万円（１口）

■ **郵便振替：00110 - 0 - 462182　加入者名：NPJ**
＊通信欄に会員の種類を(賛助会員の場合は口数も)ご明記ください。 例：賛助個人１口

■ **銀行振込：三井住友銀行 白山支店　普通 6622651　口座名義：NPJ 代表 大畑豊**
＊銀行振込をご利用の場合は、お手数ですが電話･ファックス･メールのいずれかを通じて入会希望の旨、NPJ 事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

■ **ウェブサイトからのお申し込み：http://www5f.biglobe.ne.jp/~npj/nyukai.html**

▲◈◉◍◙▣▤　編集後記　▤▣◙◍◉◈▲

🕊　6 月 14 日（土）正午頃、東京女子大学正門前でパレスチナにいるはずの中原　隆伸氏にばったり出会いました。テルアヴィブ空港で再入国を拒否され当分日本にいることになるだろうとのことでした。東京女子大学で開催中の日本平和学会の分科会で、大畑、大島さんと一緒に NPJ のスリランカの活動を発表することになっており、早速、中原氏もこれに参加してもらいました。その後、白山事務所での 6 月理事会にも出席してもらいました。その時にニューズレター23 号への寄稿をお願いしていましたが､今回は多くの方々から寄稿を頂きましたので、中原氏のパレスチナでのご活躍の様子は次号にゆずることにいたしました。乞うご期待！！

23 号は 5 月 5 日、6 日に幕張で開催された 9 条世界会議の報告を中心に企画しましたが､スリランカから一時帰国中の徳留さんへのインタビュー､NPJ の中期計画の決定など、それぞれ重要な内容を盛り込むことができました。このニューズレターが、非暴力平和隊の活動を海外の遠くで行われている活動としてだけではなく、私たちの身近な切実な問題にも取り組む活動として活かすきっかけとなることを期待しております。　（大橋　祐治）

非暴力平和隊（NP, Nonviolent Peaceforce）とは……

地域紛争の非暴力的解決を実践するために活動している国際 NGO で、非暴力平和隊・日本（ＮＰＪ）はその日本グループです。

これまで世界中の平和活動家たちが小規模な非暴力的介入について経験を積み、功を収めて来ました。ＮＰはこれを大規模に発展させるために 2002 年に創設されました。非暴力・非武装による紛争解決が「夢想主義」でも「理想主義」でもなく、いちばん「現実的」であることを実践で示していきます。

ＮＰは、地元の非暴力運動体・平和組織と協力し、紛争地に国際的なチームを派遣、護衛的同行や国際的プレゼンス等によって、地元活動家等に対する脅迫、妨害等を軽減させ、地域紛争が非暴力的に地元の人によって解決できるよう、環境づくりをすることを目的としています。

ＮＰは 2003 年９月からスリランカでの活動を開始し､現在２０カ国から２５人のメンバーを派遣しています。さらに、2007 年 5 月からミンダナオで活動開始、同時期中南米のグアテマラでも緊急プロジェクトを展開しました。
グアテマラ・プロジェクトは初期の目的を達成し 2008 年 2 月終了しました。